

てん茶向き品種の有効活用による収益改善

甲賀農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

近年、抹茶原料であるてん茶の需要が拡大しており、甲賀市土山町の法人Gでは平成30年に大型てん茶工場を整備しました。しかし、全国的に多く栽培されている品種「やぶきた」のてん茶は、供給量が多く単価は安値傾向にあります。法人Gにおいても、「やぶきた」の作付が最も多く、てん茶工場稼働による収益向上効果が十分発揮できていませんでした。

そこで、収益性の改善が見込まれるてん茶としての評価が高い品種（以下「てん茶向き品種」という）のてん茶への加工割合を高めることをねらいとして、課題に取り組みました。

【普及活動の内容】

てん茶向き品種の面積拡大を図るため、新たなてん茶向き品種の選定や、「やぶきた」からてん茶向き品種への改植計画の立案等を支援しました。

てん茶向き品種の加工割合を高めるため、一、二番茶とも連続して長期被覆しても樹勢を落とさずに安定生産できる栽培体系の確立を目指しました。具体的には、代表的なてん茶向き5品種でモニタリング茶園を設け、生育状況を数値化して把握することで、①適期防除等による良好な茶園管理②最適な被覆の実施③一番茶摘採直後のせん枝④二番茶の被覆が可能かの見極め等、連続被覆に耐えうる栽培体系の確立を支援しました。

また、長期被覆に伴う樹勢低下を軽減するための施肥体系の確立を目指し、3パターンの調査ほを設け、土壌分析や生育把握を行いました。



写真 モニタリング茶園（さきみどり）

【普及活動の成果】

新たに2品種がてん茶向き品種として、有望であることが明らかとなり、「やぶきた」からてん茶向き品種に70aを改植することとなりました。モニタリング茶園で生育経過を数値化することで、適期に被覆を実施できたため、一、二番茶ともてん茶に加工できたほ場が昨年度の20%から60%に向上できました。また施肥体系については、I社の肥料を使った体系が有望と判断しました。

てん茶向き品種の加工割合は、昨年度に比べて一番茶では15%増え50%に、二番茶では8%増え40%となり、特に二番茶では、計画以上のてん茶加工面積が確保でき、前年以上の収益があがるなど、収益性の改善に寄与しました。

◎対象者の意見

品種別の作付計画の作成は、当法人がこれから目指していく将来構想の整理・検討に大いに役立つものとなった。今後もさらに検討を進めていきたい（代表理事）。